

5 丹後広域振興計画

(1) 主な成果等

主な成果等 1

丹後地域の活性化を牽引する観光振興

- 丹後地域への観光入込客数は、2003年の約630万人をピークに海外も含めた他の観光地との競争激化の中で減少し、2010年代前半は520万人から550万人で推移していた。その後、2015年の京都縦貫自動車道全線開通、2016年の山陰近畿自動車道（野田川大宮道路）の開通や「海の京都博」の取り組み、「海の京都DMO」の設立などにより、観光入込客は600万人前後で推移し、観光消費額も大きく増加した。ただし、日帰り客の増加により宿泊率は減少している。なお、2018年については、7月西日本豪雨や相次ぐ台風の襲来によるイベントの中止、海水浴客の減少が大きく影響し、観光入込客数が減少した。
- 丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、ナシ、ブドウ、メロン、茶、丹後とり貝、丹後ぐじなど丹後地域の強みを活かした製品の増強や丹後王国「食のみやこ」を拠点とした丹後の「食」の魅力発信を進めるとともに、それらを支える基盤づくりとして、「丹後農業実践型学舎」、「海の民学舎」等による新規就業支援や後継者確保、農業経営の規模拡大による農地集積の加速化など担い手の育成・支援を行い、食を活かした産業振興を推進した。

☆「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり

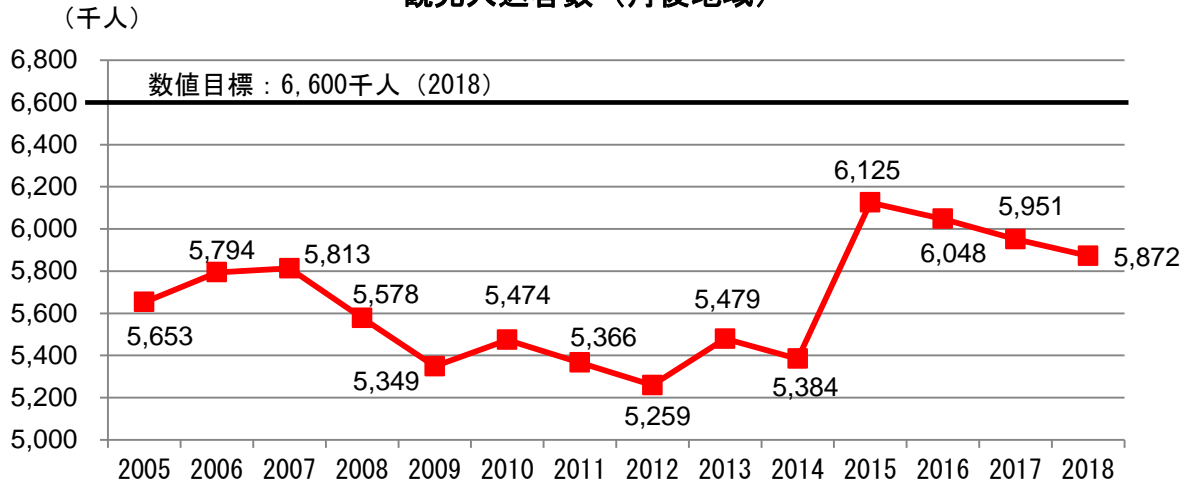
「海の京都DMO」と連携し、豊富な観光資源を更に磨き上げるとともに、これらを活用した体験プログラムの開発や点在している観光資源を鉄道やバス、船、自転車等を活用して周遊するシステムを構築することが必要。また、宿泊施設の受け入れ環境の整備等外国人が安心して不便なく滞在できる環境づくりを行い、経済波及効果の大きい滞在交流型の観光地域づくりをさらに推進して、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要である。

☆観光との連携による食関連産業の創出

農林水産物のブランド力向上や新たな販路開拓により、生産者の所得向上を図るとともに、AI、ICT等の新技術を活用し、生産性の向上を図ることが必要。

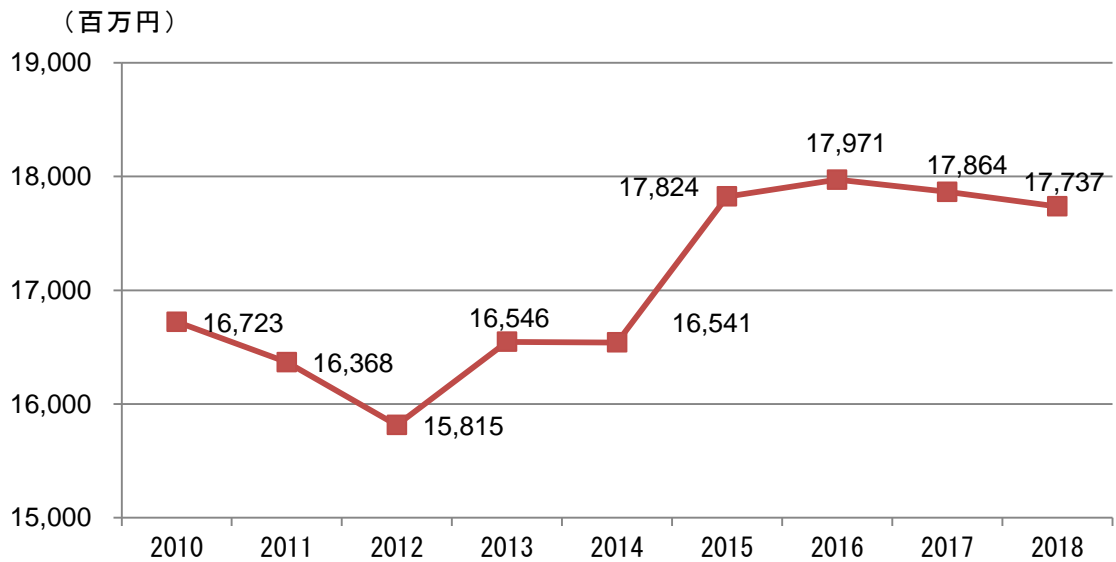
また、丹後王国「食のみやこ」を10次産業化の拠点として「食」の開発・販売を推進するとともに、「食」に関連する人材育成を展開し、観光との連携による食関連ビジネスの創出を進めることが必要である。

観光入込客数（丹後地域）



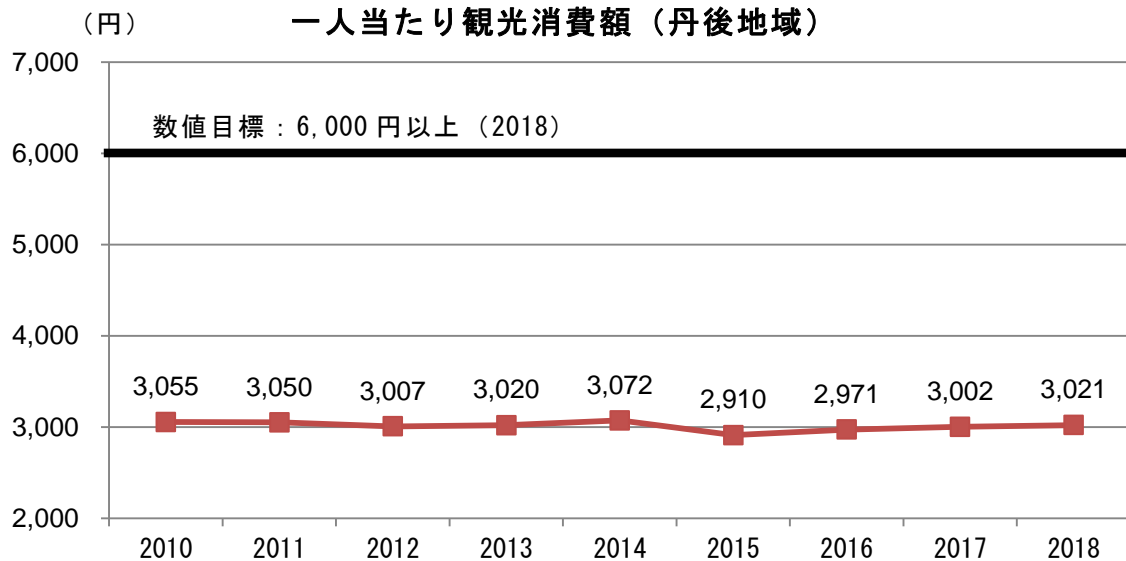
資料：京都府観光入込客調査 □施策指標

観光消費額（丹後地域）



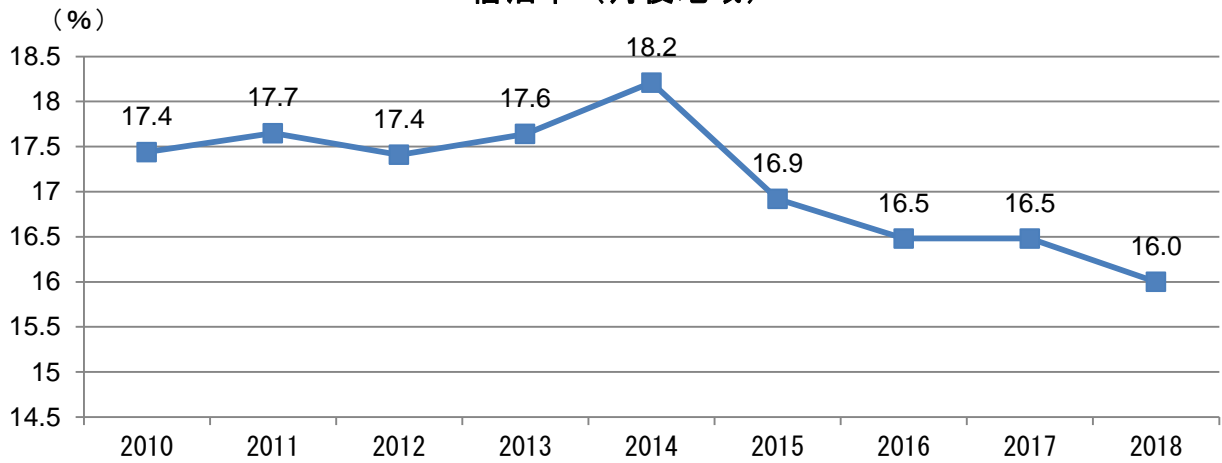
資料：京都府観光入込客調査

一人当たり観光消費額（丹後地域）



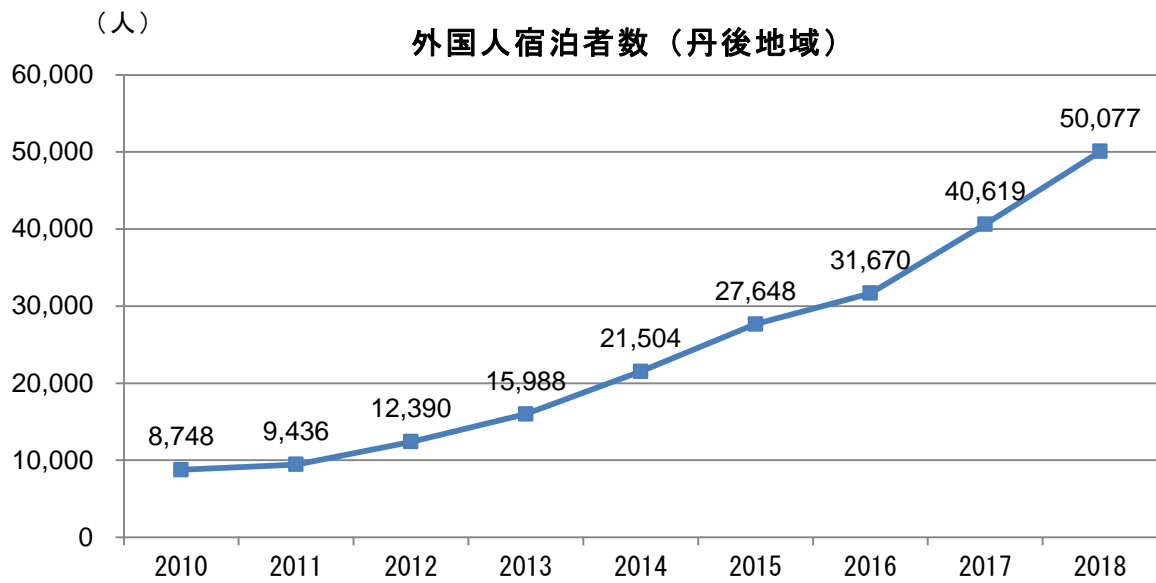
資料：京都府観光入込客調査 □施策指標

宿泊率（丹後地域）



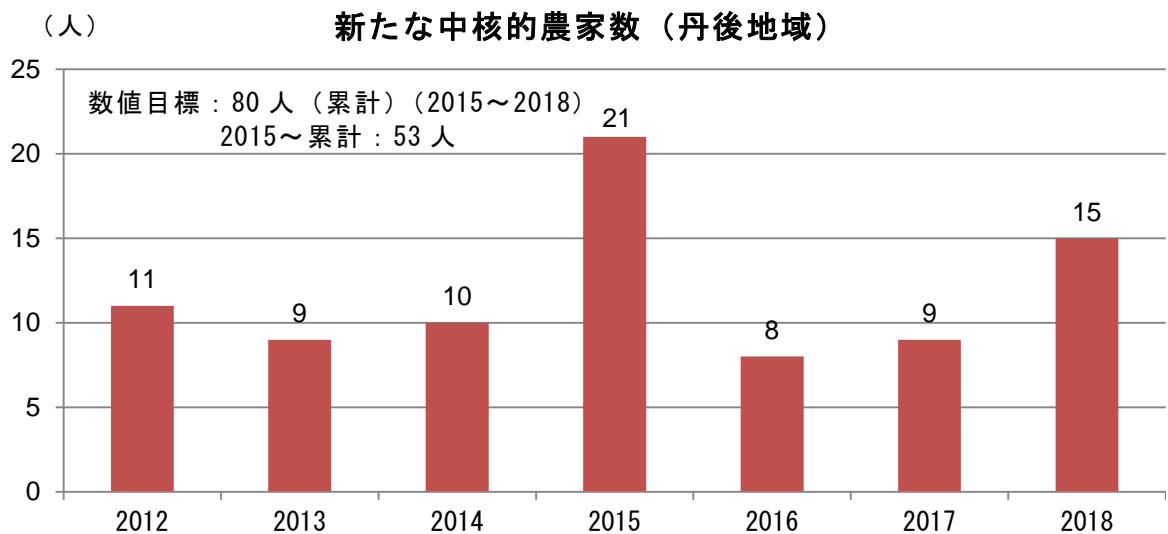
資料：京都府観光入込客調査

外国人宿泊者数（丹後地域）



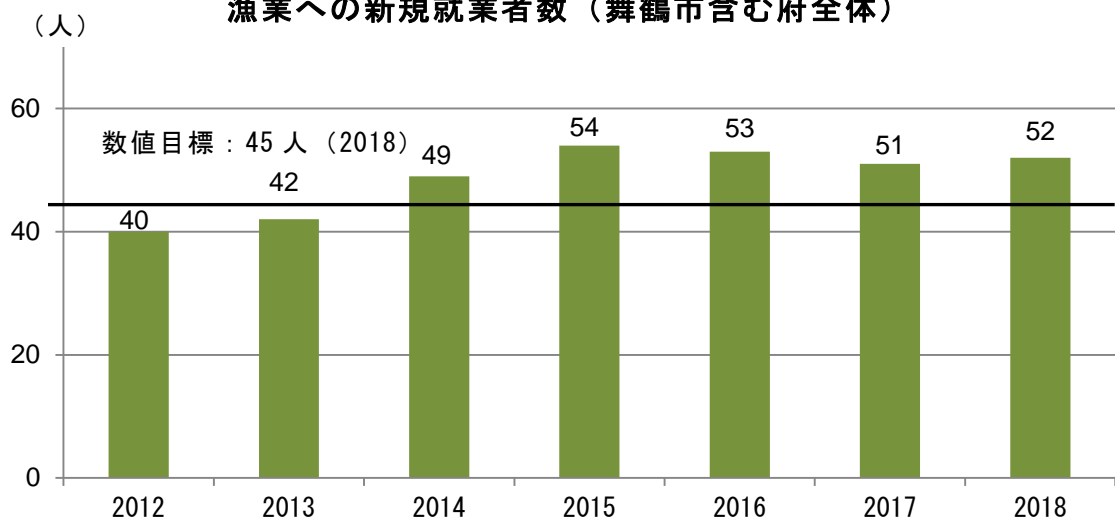
資料：京都府観光入込客調査

新たな中核的農家数（丹後地域）



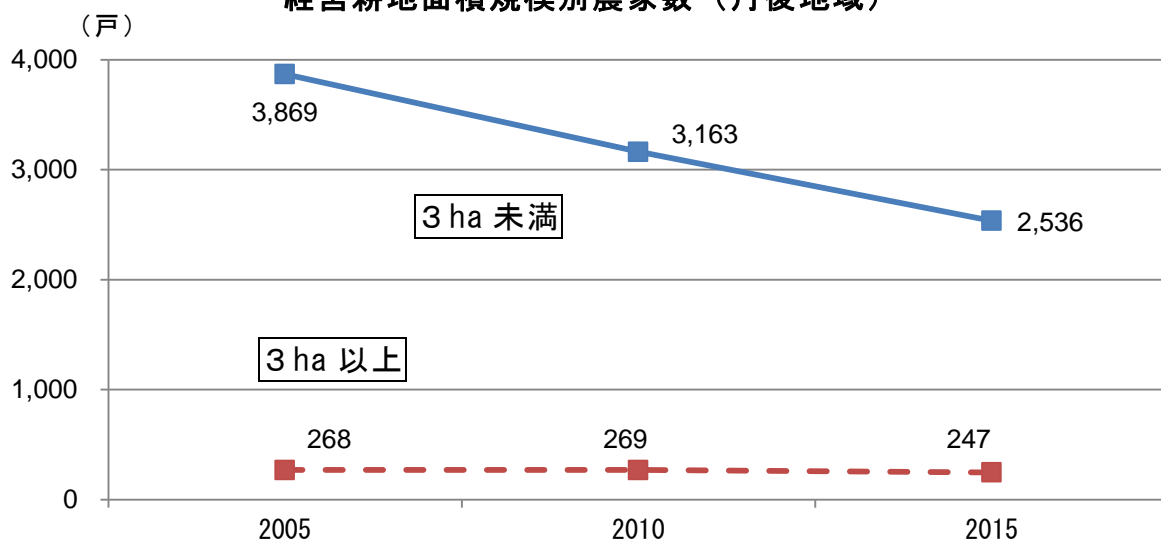
資料：丹後広域振興局農林商工部調べ □施策指標

漁業への新規就業者数（舞鶴市含む府全体）



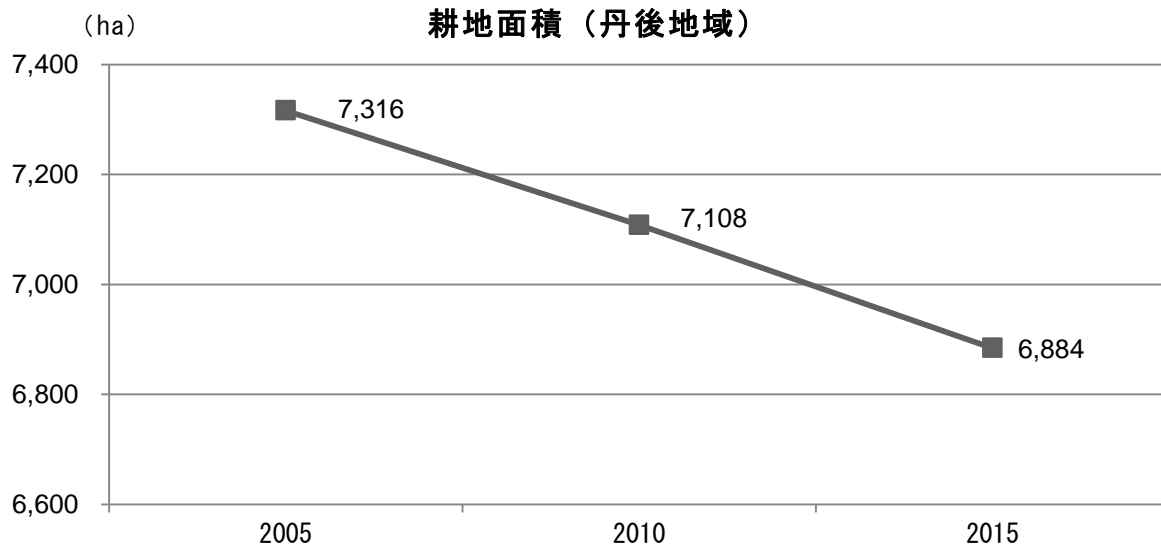
資料：丹後広域振興局農林商工部調べ □施策指標

経営耕地面積規模別農家数（丹後地域）



資料：近畿農林水産統計年報

耕地面積（丹後地域）



資料：近畿農林水産統計年報

ものづくり産業等地域産業の振興

- 府内の経済情勢は、弱さがあるものの緩やかな拡大基調にあり、丹後地域においても有効求人倍率の上昇や製造業における受注量等も比較的安定するなど徐々に改善の動きが出てきた。ただし、依然として深刻な人材不足や中国経済の先行きなど世界経済の動向が不確実性を含んでおり、今後の先行きが懸念される。
- 丹後地域は約 300 年の伝統を誇る「丹後ちりめん」の産地であり、織物業が基幹産業の一つとして地域経済を支えてきたところであるが、消費者の生活スタイルの多様化の中、和装需要の低迷等により、丹後ちりめんの生産数量の減少に歯止めがかからない状況であるとともに、原料の生糸が高止まりするなど厳しい経営環境が続いている。一方、海外に出展し、有名ブランドとの取引につながった事業者や海外での見本市に出展する事業者など、新分野での事業展開の動きも広がりつつある。
- 機械金属業においても、高付加価値の商品づくりから一歩進んだ独自製品の設計や新技術開発のほか、新分野への展開が重要になっていることから、「丹後・知恵のものづくりパーク」に VR システム、三次元 CAD、縫製装置などの最先端機器を導入するとともに、2019 年には「京都経済センター」とオンラインで結んだテレビ会議システムを導入。人材育成の強化、多様な連携・交流による新産業の創出を図った。
- また、進学等を機に丹後を離れる若者が多く、地域産業を担う人材確保が困難な状況であることから、「北京都ジョブパーク」と連携し、北部地域への U・I ターン促進の取組を推進した。

☆「丹後ちりめん創業 300 年」等を契機とした丹後ブランドの発信

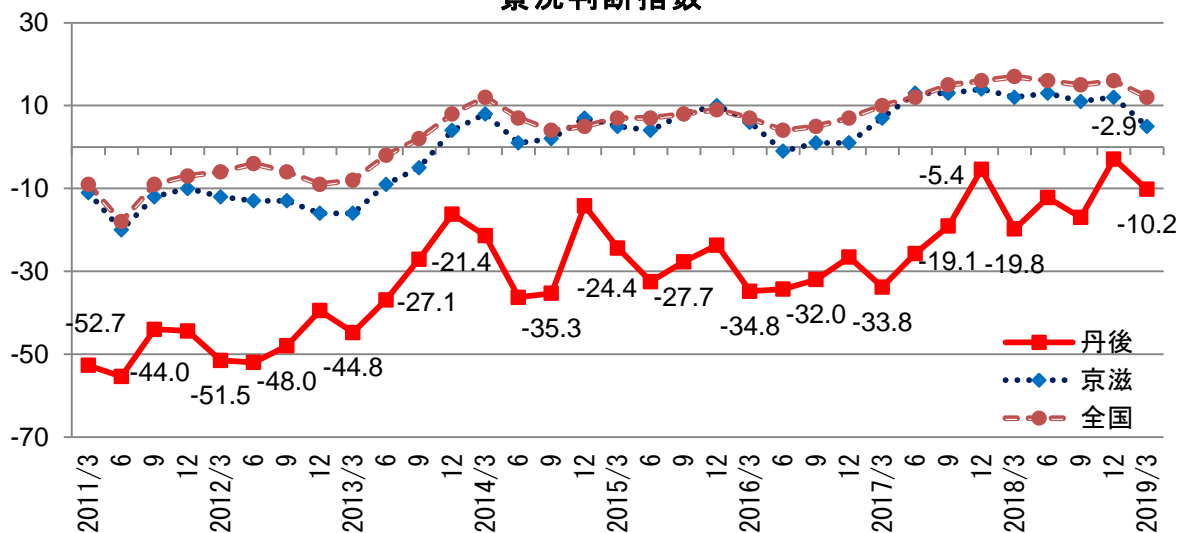
2020 年に迎える「丹後ちりめん創業 300 年」や 2017 年 4 月の「丹後ちりめん回廊」日本遺産認定を契機とし、丹後ちりめんをはじめ、丹後地域全体を活性化させるための「ブランド」力の向上につなげる機会と捉え、そのための新商品開発や販路開拓、様々な人の参画・協働につながるイベントの開催や加工場のリニューアルなどを進めていく必要がある。

☆深刻化する人材不足に対応するための人材確保・育成

地域産業を担う人材不足が深刻化しており、企業の採用力を高めるためのセミナーの実施、都市部の若者等に対して、積極的に地域情報や企業情報等を発信することにより、U・I ターン等を促進するなど人材確保対策が必要である。

また、地域産業のニーズに応じた人材育成研修等を推進するとともに、異業種連携等により、既存分野から新分野への進出を進めていく必要がある。

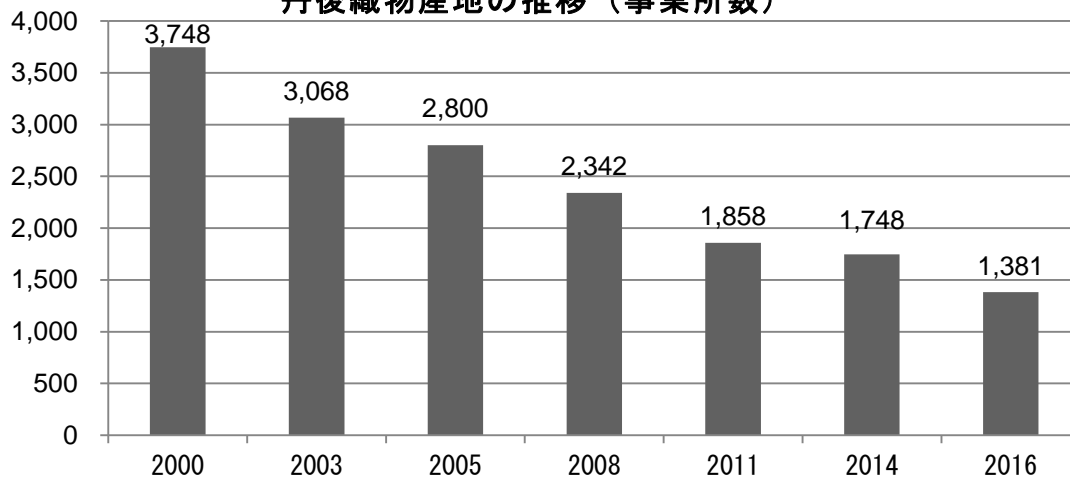
景況判断指数



資料：民間金融機関調べ ◆統計データ

(事業所)

丹後織物産地の推移 (事業所数)



資料：工業統計調査 (京都府の工業)

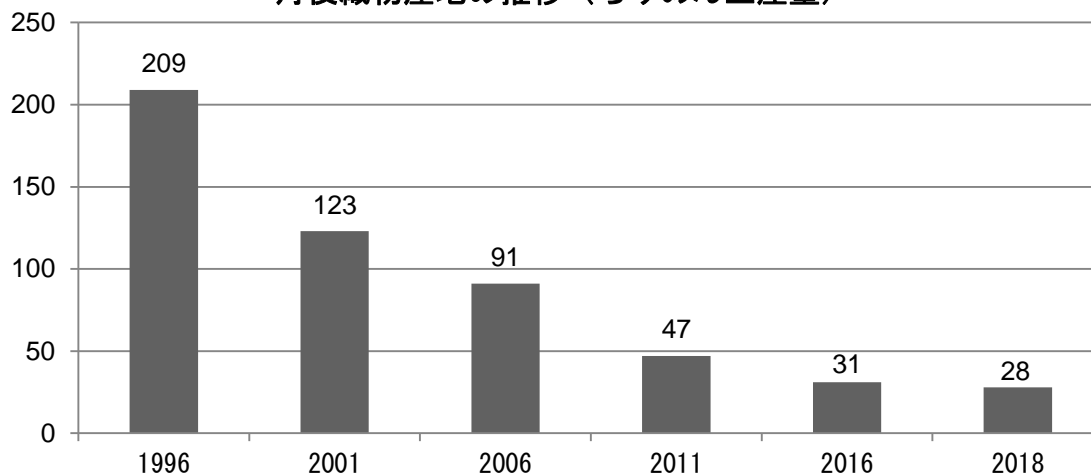
◆統計データ

※2011、2016は経済センサス - 活動調査

2014は経済センサス基礎調査で調査方法が異なるため参考値 (総務省・経済産業省)

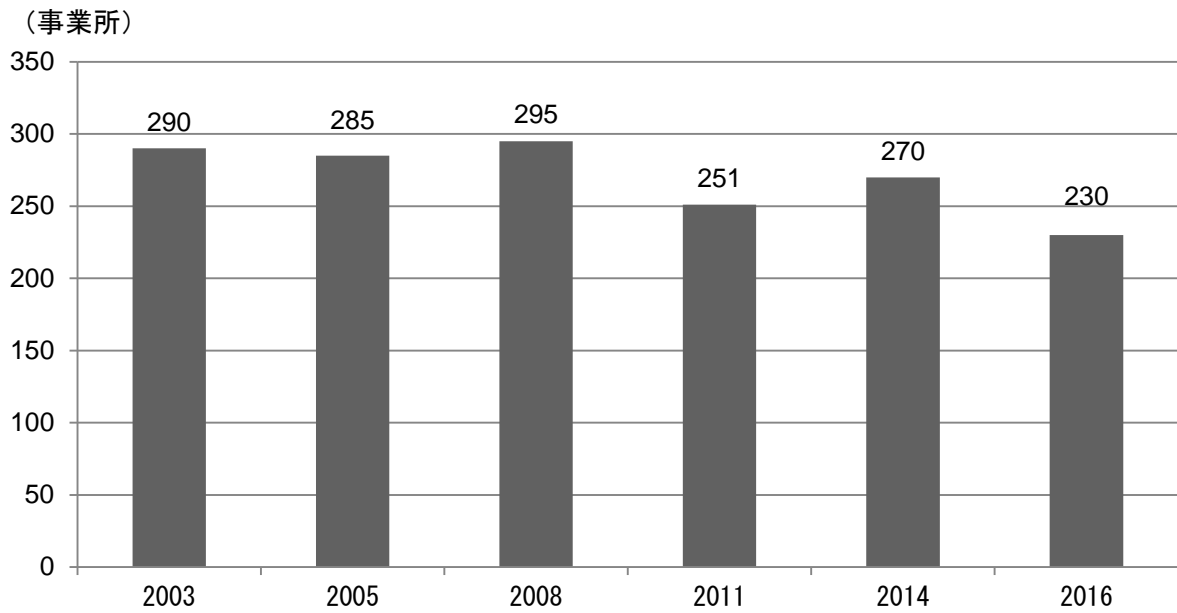
(万反)

丹後織物産地の推移 (ちりめん生産量)



資料：丹後織物工業組合調査 ◆統計データ

丹後機械金属業事業所数推移



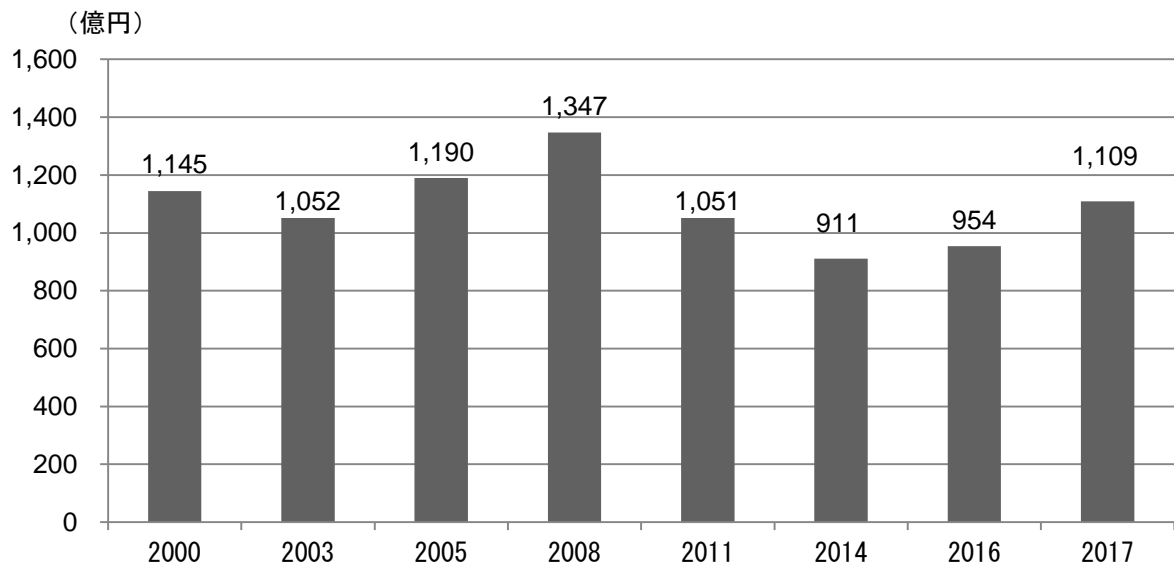
資料：工業統計調査（京都府の工業）

◆統計データ

※2011は経済センサス - 活動調査

2014は経済センサス基礎調査で調査方法が異なるため参考値（総務省・経済産省）

丹後地域製造品出荷額（4人以上事業所）



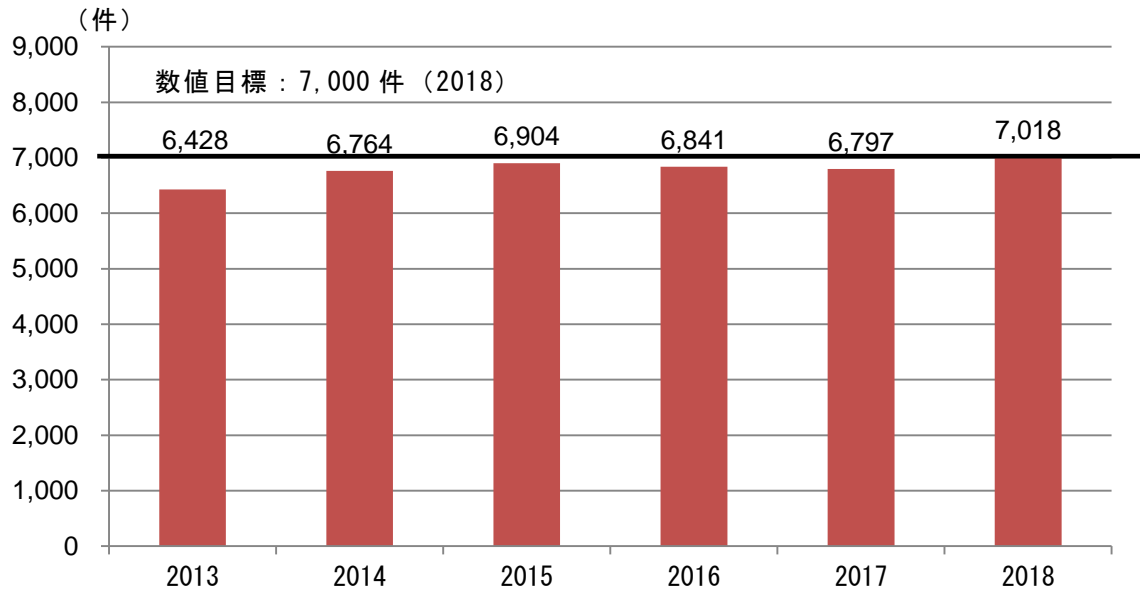
資料：工業統計調査（京都府の工業）

◆統計データ

※2011は経済センサス - 活動調査（総務省・経済産業省）

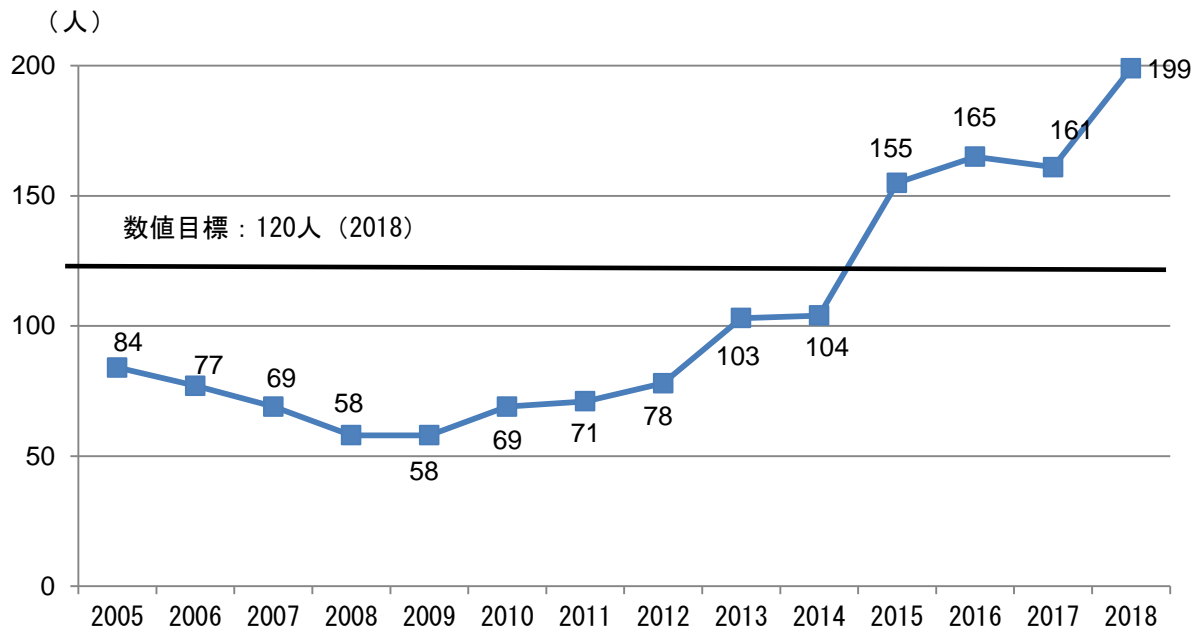
※2017は速報値

丹後・知恵のものづくりパーク 技術相談・企業支援件数



資料：京都府織物・機械金属振興センター調べ □施策指標

U・Iターン就業者数



資料：北京都ジョブパーク調べ □施策指標

※中丹地域を含む

府民生活の安心・安全の確保等

- 2017年、2018年と大きな被害をもたらした台風・大雨による水害や地震、津波等の災害から府民を守るため、市町と連携し丹後地域特有の事情を踏まえた防災訓練を実施し、災害に強い地域づくりを支援した。
- 医師をはじめとする医療従事者が不足しているため、府立医科大学附属北部医療センターによる医師派遣機能強化など地域医療体制の充実を図る取組を展開した。
- 丹後医療圏域の死因の第1位である「がん」の早期発見、早期治療のため、がん検診受診勧奨を進めるとともに、府立医科大学附属北部医療センターで診断から治療まで一体的に実施できるがん診療棟を2020年春の診療開始に向けて整備を進めた。
- 高齢化が府内で最も進む中で、認知症や慢性疾患を抱えた高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療や介護、福祉の各サービスが一体的に提供できる地域包括ケアの環境を整備するとともに、地域を支える福祉人材の支援スキル向上や虐待防止に関する知識を習得するための体制整備、人材育成・定着を支援した。
- 少子化が進む丹後において、病児・病後児保育施設拡大支援など、地域全体で子育てを進める仕組みづくりを推進した。
- 丹後地域は、20～30歳代の人口比率が府平均と比較して低率であるとともに、年々減少の一途となっており、地域の活性化を牽引する次世代の^{けん}人材が不足している。

☆地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実

地震による津波や水害、雪害等地域特有の災害などに対処するため、住民の力を結集した取組をまちづくりの段階から進め、ソフト・ハード両面から地域の安心・安全を確保するとともに、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉を更に充実することが必要である。

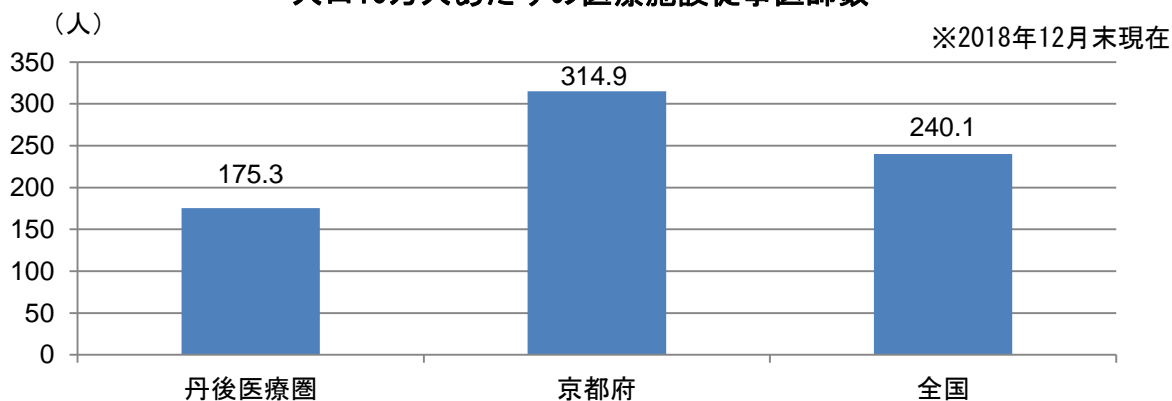
☆健康長寿に向けた生活習慣病の発症予防、重病化予防の取組

丹後地域は、食塩摂取量が目標摂取量より多く、他地域に比べ日常生活における平均歩数や運動習慣のある者が少ないなど、生活習慣病の発症リスクが高いため、地域住民対象の取組と併せて、働き世代を対象に生活習慣病の発症予防、重症化予防の取組が必要である。

☆若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり

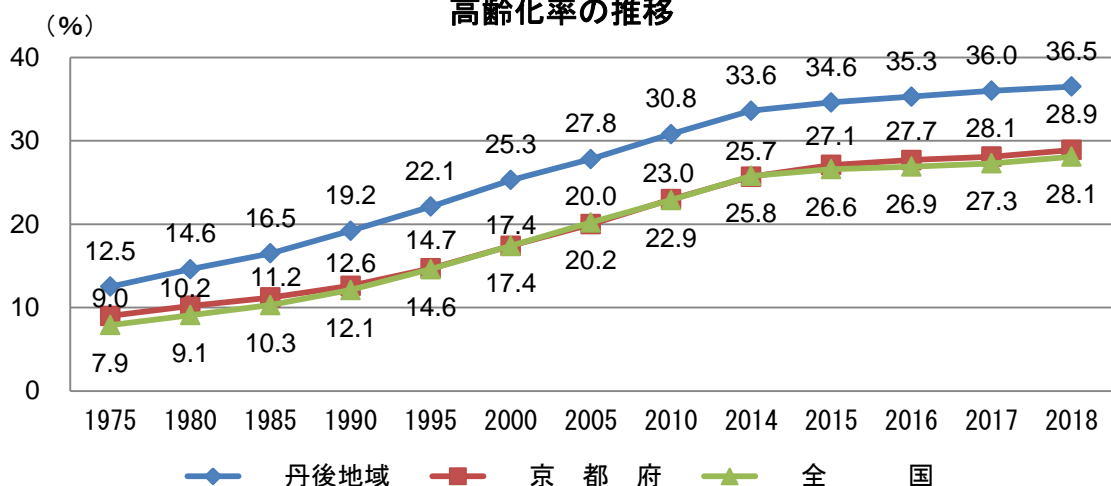
10～20年後の丹後を見据え、未来を担う子どもたちに丹後の自然・歴史・産業・文化を学習・体験する機会等を提供することで、ふるさとへの愛着を高め、地元定着者を増やすしくみづくりが必要である。

人口10万人あたりの医療施設従事医師数



資料：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省） ◆統計データ

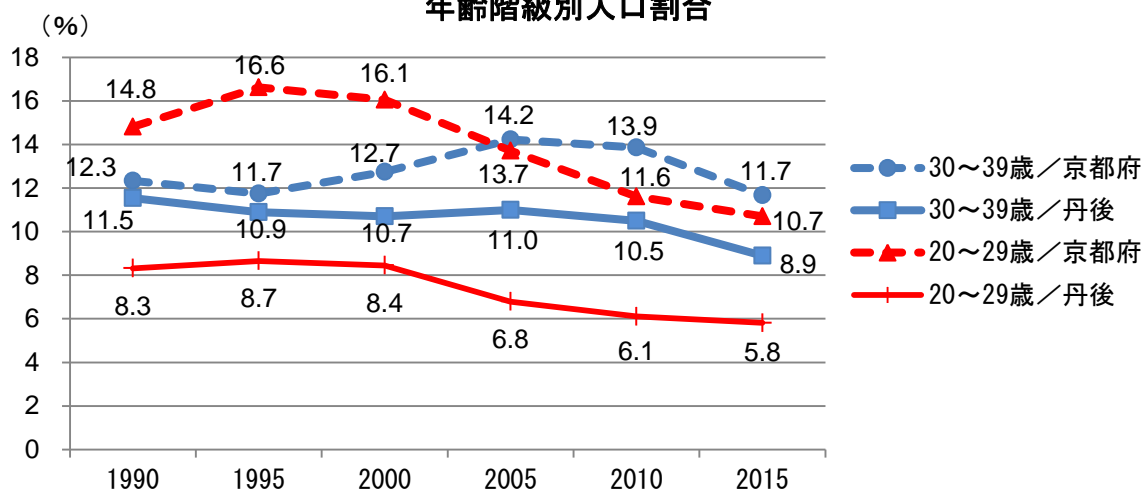
高齢化率の推移



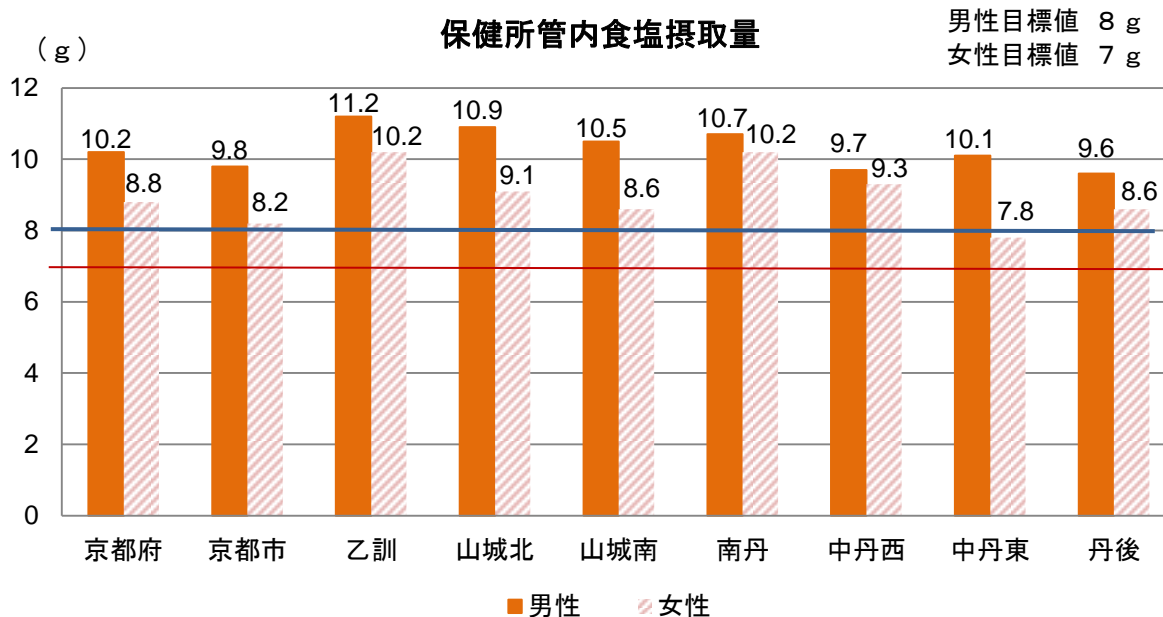
資料・2010年までは国勢調査 ◆統計データ

- ・2014年～2017年「全国」は総務省推計人口
- ・2014年～2018年「京都府・丹後地域」は住民基本台帳に基づく市町からの報告数値

年齢階級別人口割合

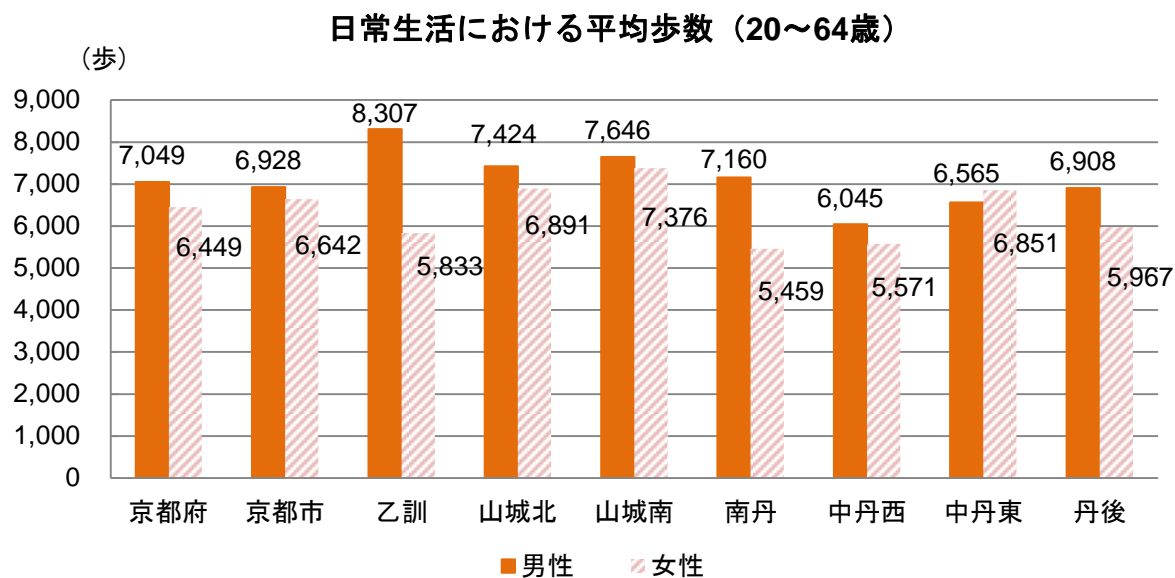


資料：国勢調査 ◆統計データ



資料：国民／府民健康栄養調査（2016） ◆統計データ

※2019年度健康長寿・データヘルス推進プロジェクト報告書でも丹後地域は「保存食、発酵食、練り製品等塩分の多い食事が多い」と報告



数値目標：1日 20～64歳（男性 8,800歩 女性 8,400歩）65歳以上（男性 7,000歩、女性6,000歩）

資料：国民／府民健康栄養調査（2016） ◆統計データ

※2019年度健康長寿・データヘルス推進プロジェクト事業報告書でも、丹後地域は「交通手段には自家用車が欠かせず、運動量が少ない」と報告

(2) 地域振興計画関連指標 (数値目標)

2018年(度)達成状況

〔達成率の算出方法〕

①数値目標が「増加」の方向をめざしている場合

$$\text{達成率}(\%) = (\text{当該年(度)実績値} - \text{基準値}) / (\text{数値目標} - \text{基準値}) * 100$$

②数値目標が「減少」の方向をめざしている場合

$$\text{達成率}(\%) = (\text{基準値} - \text{当該年(度)実績値}) / (\text{基準値} - \text{数値目標}) * 100$$

	施策指標	単位	基準値 (基準年)	数値目標 (目標年)	実績値	
					2015年(度)	2016年(度)
丹後地域振興計画						
80 ①	丹後地域を訪れる観光入込客数	万人	548 (2013年)	660 (2018年)	613	605
80 ②	観光客の一人当たり消費額	円	3,020 (2013年)	6,000 (2018年)	2,910	2,971
81	名神高速道路から北部への移動にかかる所要時間 (大山崎JCT～京丹後大宮IC)	分	115 (2013年度)	90 (2018年度)	100	90
82	丹後産コシヒカリの食味ランキング	—	特A (2013年度)	特A (2018年度)	A	A
83	農商工連携取組支援件数	件	43 (2010～2013年度)	新規50 (2015～2018年度)	20	40
84	ブランド水産物の販売額 (丹後とり貝、丹後ぐじ 中丹地域を含む)	万円	10,200 (2011～2013年度平均)	15,400 (2018年度)	19,313	16,853
85	新たな中核的農家の育成数	人	38 (2010～2013年度)	新規80 (2015～2018年度)	21	29
86	漁業における新規就業者数 (中丹地域を含む)	人	39 (2011～2013年度平均)	45 (2018年度)	54	53

注1) 調査未実施、結果未公表等の理由で実績値が記載できない指標については、当該年(度)の「実績値」欄に「-」と記載した。

注2) 結果未公表により目標年の実績値が明らかとなっていない場合がある。このため、一部の指標については、「達成率」欄が目標に対する進捗率となるものがある。

実績値		達成率 (%)	数値目標数値が達成又は未達成となった要因等	備考
2017年(度)	2018年(度)			
595	587	34.8	2015年の京都縦貫自動車道全線開通や海の京都の取組により一定増加はみられたものの、観光の多様化等により再び減少傾向である。2018年度は夏季の豪雨や台風によるイベント中止や海水浴客の減が影響した。	
3,002	3,021	0.0	2015年の京都縦貫自動車道全線開通によりアクセスが向上し入込数全体は増加したが、単価の高い宿泊客は減少、消費単価の底上げには繋がらなかった。しかし、2018年度は観光関連対象施設割引クーポンキャンペーン(京丹後市)実施等により、日帰り客単価の増加がみられた。	
90	90	100.0	京都縦貫自動車道の全線開通によってアクセスが向上し、数値目標を達成した。	
A	A	-	登熟期の高温による未熟粒の発生と日照不足による登熟不良により食味が低下、2018年度は降雨日の連続により収穫が遅れたためAとなった。	
54	68	136.0	農業関係団体等と連携した農業ビジネスの掘り起こしを行う中で、京の食6次ビジネス創出事業等により、丹後の食を活かした異業種交流や6次産業化などの取組を支援した。	
10,467	11,158	18.4	丹後とり貝の生産性を高める新たな育成管理技術の普及等に努めた結果、生産数が大幅に増え、2015年度から2年連続して数値目標を達成したが、2017年度からは、丹後とり貝の生産数の低迷や丹後ぐじの産地拡大の遅れ等もあり、数値目標を下回った。 丹後とり貝は、環境悪化時にも高品質かつ安定的な生産できる漁業者を育成していくとともに、品質管理体制の強化によりブランド力の向上を図る。丹後ぐじについては、漁業者、漁協と連携し、早期ブランド産地(水揚げ港)拡大に努める。	
38	53	66.3	中核的農家の育成を進めてきた中で、新規就農希望者が減少傾向にある。また、若手中核的農家の経営規模の拡大及び安定経営が重要となっており経営支援にシフトしている。	
51	52	216.7	海の民学舎の取組開始を通じ、漁業団体や市町と連携して新規就業者の受入及び定着支援体制を整備したとともに、継続的な人材募集を実施したことにより、2015年度以降、毎年、数値目標を上回った。	

	施策指標	単位	基準値（基準年）	数値目標（目標年）	実績値	
					2015年（度）	2016年（度）
87	中小企業による経営革新等の取組支援件数	件	49（2010～2013年度）	新規60（2015～2018年度）	15	33
88	経営問題等に係るサポート件数	件	185（2013年度）	200（2018年度）	183	191
89	「丹後・知恵のものづくりパーク」における技術相談や人材育成を通じた企業支援件数	件	6,428（2013年度）	7,000（2018年度）	6,904	6,841
90	丹後地域へのU・Iターン就業者数	人	103（2013年度）	120（2018年度）	155	165
91	山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク」再認定	—	再認定（2014年度）	再認定（2018年度）	—	—
92	海岸松林の保全・整備面積	ha	17（2013年度）	20（2018年度）	18	18
93	土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所の割合	%	約75（2013年度）	100（2018年度）	100	100
94	新たな津波浸水区域を踏まえた市町防災計画の見直し支援対象数	市町	4（2013年度）	全4（2018年度）	4	4
95 ①	がん検診を受診する人の割合（胃がん）	%	24（2013年度）	50（2018年度）	26.6	18.6
95 ②	がん検診を受診する人の割合（肺がん）	%	43（2013年度）	50（2018年度）	39.7	21.2
95 ③	がん検診を受診する人の割合（大腸がん）	%	40（2013年度）	50（2018年度）	43.8	21.5

実績値		達成率 (%)	数値目標数値が達成又は未達成となった要因等	備 考
2017年(度)	2018年(度)			
44	65	108.3	各種支援制度等を活用し、経営革新等に取り組む意欲と行動力のある中小事業者が増加した。	
186	188	20.0	2018年度は、様々な支援策の紹介やフォロー、ニーズを踏まえたセミナー開催等により前年度から微増したが、経営環境が厳しい中でサポートの需要が高まっており、地域のニーズに合致した施策等を展開、丁寧に時間をかけて対応を行ったため、対応可能件数が数値目標に達しなかった。	
6,797	6,805	65.9	継続した基礎研修、問題解決のための相談等ニーズをきめ細やかに把握し実施したことにより、2018年度は増加したが、全体として、中小企業が直面している人材確保・育成のニーズにあった研修の実施ほか新商品開発・販路開拓及び機械加工等の相談は増加したものの、織物関係の補助制度による相談が補助制度初年度(2015年度)から減少した。	
161	199	564.7	地元企業の魅力・情報の発信等を各市町やジョブパークと連携して実施したことにより、数値目標を大幅に上回った。	
—	再認定	100.0	再認定に向けて、環境整備の実施など機運醸成の取組を行った結果、2019年2月にユネスコ世界ジオパーク再認定審査の結果が公表され、再認定を達成した。	
19	20	100.0	景観保全上重要な海岸松林を中心に保全対策を継続、多様な主体が関わる地域活動による松林再生(松苗植栽及び育成)の活動が定着しつつある。	
100	100	100.0	指定に係る地元説明会等により、住民理解が進み、指定箇所数が年々伸び、2016年3月に100%指定を達成した。	
4	4	100.0	数値目標を達成したが、管内2市2町で災害発生時に適切な避難が実施できるよう防災計画の見直しや避難訓練、地域防災リーダー等への研修等を継続して支援する。	
—	—	—	がん検診に関する普及啓発や受診環境整備に取り組んだ結果、受診する人の割合は上昇傾向だが、2016年までは数値目標に達していない。 2017年度からは、受診率の算定方式が変更されたため、地域ごとの割合の算出ができなくなった。	
—	—	—	がん検診に関する普及啓発や受診環境整備に取り組んだ結果、受診する人の割合は上昇傾向だが、2016年までは数値目標に達していない。 2017年度からは、受診率の算定方式が変更されたため、地域ごとの割合の算出ができなくなった。	
—	—	—	がん検診に関する普及啓発や受診環境整備に取り組んだ結果、受診する人の割合は上昇傾向だが、2016年までは数値目標に達していない。 2017年度からは、受診率の算定方式が変更されたため、地域ごとの割合の算出ができなくなった。	

施策指標	単位	基準値（基準年）	数値目標（目標年）	実績値	
				2015年(度)	2016年(度)
95 ④ がん検診を受診する人の割合（子宮がん）	%	41（2013年度）	50（2018年度）	57.1	28.4
95 ⑤ がん検診を受診する人の割合（乳がん）	%	44（2013年度）	50（2018年度）	67.6	36.8
96 ゲートキーパー養成数	人	2,145（2012～2013年度）	5,000（2018年度）	4,970	6,245
97 認知症サポーター養成数	人	11,180（2013年度）	13,000（2018年度）	15,767	18,231
98 地域力再生交付金や協働コーディネーターとの連携などによる地域力再生活動に取り組む団体数	団体	206（2013年度）	230（2018年度）	228	236
99 京都丹後鉄道利用人数	万人	186（2013年度）	200（2019年度）	187	181

実績値		達成率 (%)	数値目標数値が達成又は未達成となった要因等	備 考
2017年(度)	2018年(度)			
—	—	—	がん検診に関する普及啓発や受診環境整備に取り組んだ結果、受診する人の割合は上昇傾向だが、2016年までは数値目標に達していない。 2017年度からは、受診率の算定方式が変更されたため、地域ごとの割合の算出ができなくなった。	
—	—	—	がん検診に関する普及啓発や受診環境整備に取り組んだ結果、受診する人の割合は上昇傾向だが、2016年までは数値目標に達していない。 2017年度からは、受診率の算定方式が変更されたため、地域ごとの割合の算出ができなくなった。	
7,321	7,789	197.7	市町や企業と連携して取り組むことができた結果、数値目標を大きく上回った。2018年度はさらに取組を進め、看護師等特定職種に絞った研修や、本人、家族の生活に多大な損害を及ぼし自殺に至るケースもある「ギャンブル依存症」についてセミナーを実施した。	
20,226	21,698	577.9	市町や企業と連携して取り組むことができた結果、数値目標を大きく上回った。2018年度は市町の認知症対策の取組が充実する中で、積極的に人材養成を実施した。	
265	295	370.8	2011年度から設置した協働コーディネーターによる団体相談や広報等の支援策が認知、定着したことにより、数値目標を達成した。2018年度も協働コーディネーターによる積極的な団体掘り起こしにより、団体数は増加している。	
178	165	-150.0	2018年度は7月豪雨や台風による運休等による減が大きく影響したが、沿線人口の減少や近年頻発する災害による運休日数の増加等により、減少が続いた。	

(3) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2018年9月] の「今後の課題」について、2019年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

丹後地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	
☆「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰海岸ジオパークトレイル魅力発信事業 ・丹後サイクルリビングラボ展開事業 ・丹後の森みどころ発掘事業
☆観光との連携による食関連産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・海の京都 食で巡る滞在促進事業 ・広域エリア周遊強化事業 ・丹後・食の魅力発信事業 ・「食」と「人材確保」の視点からの連携による丹後活性化事業
(2) ものづくり産業等地域産業の振興	
☆人材確保のためのU・Iターン対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後移住サポート事業 ・「食」と「人材確保」の視点からの連携による丹後活性化事業（再掲）
☆「丹後ちりめん創業300年」などの取組による丹後ブランドの発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹後ちりめん創業300年」事業 ・明日を担う「丹後の人」育成事業
(3) 府民生活の安心・安全の確保	
☆地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い丹後の人づくり事業 ・地域と学生で支える自然共生地域・人づくり事業
☆若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・明日を担う「丹後の人」育成事業 ・地域と学生で支える自然共生地域・人づくり事業（再掲）